

学長式辞

最近は、3月が、温かい「春」というより、寒さと暑さが交互に現れ、体調管理が難しい時期となりました。正月とは違う意味での「1年の区切り」のこの月に、本学の学部卒業生、大学院修了生が一堂に会した学位記授与式を挙げていただけますこと、大変嬉しく思います。

ご卒業、ご修了、おめでとうございます。心から、お祝い申し上げます。

卒業生、修了生のご家族、関係の皆様には、別室でこの会場の様子をご覧いただいております。保護者の皆様には、お子様のご卒業、ご修了をお慶び申し上げますとともに、これまで本学に賜りましたご支援に対しまして、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

また、ご来賓として、愛媛県の菅副知事、愛媛大学校友会の高橋会長、愛媛大学経営協議会の委員の方々にご臨席いただいております。厚く、御礼申し上げます。

この佳き日にあたり、ただいま、1764名の学部卒業生に、また、479名の大学院修了生に、それぞれの学位記を授与させていただきました。学部卒業生の多くは、実社会へと羽ばたかれることと思いますが、本学で修得した汎用的能力や専門的知識・技術を活かし、それぞれの進路において大いに力を発揮していただくことを願っています。大学院修了生は、それぞれの学術領域で、真理の解明に繋がる基礎的研究や、社会実装にも繋がる応用的研究を進められてきたと思いますが、今後は、研究者、技術者、専門家として活躍いただくことを願っています。

この3月は、2011年に発生した東日本大震災から15年になります。

大きな被害を受けた自治体の中には、「建物や道路などのインフラはかなり復旧したものの、人口が大幅に減り、高台移転や区画整理で造成した住宅地の利用率が低い地域がある」という新たな課題に向き合うことになった自治体もあります。また、整備したインフラの維持費が過大となり、大きな財政的負担になっているとも聞きます。

要するに、復興に向けた住民の合意形成に時間を要したことに加えて、人口についても、被災による流出だけではなく、わが国が既に人口減少局面に入っていたことを、復興の計画を策定する際に十分考慮できなかったことで、結果として、新たな課題を生じさせてしまいました。

このようなことは、ある程度先の将来を予測し、シミュレーションし、計画を立てることで避けられることですが、残念ながら、人間には「正常性バイアス」が備わっています。「正常性バイアス」とは、自分にとって都合の悪い情報を無視したり過小評価し、「自分は大丈夫」と考える認知バイアスの一種です。この「正常性バイアス」のために、私どもは、厳しい将来の姿を考えることを避けてしまい、起こった後で「想定外」という言葉を使うことになります。

四国では、今後、南海トラフ巨大地震も予想されています。既に、四国の自治体では、東日本大震災からの復興プロセスへの反省の意味も含めて、「事前復興計画」の策定が始まっています。災害が起こる前に、冷静、かつ、十分に時間を掛けた議論ができる状況で、1世代（いちせだい）先までの人口減少を取り込んだ、復興計画を策定する必要があります。

これからの変化の速い時代では、30年先のことは、想像できませんし、また、責任を感じる必要もないと思います。

しかし、10から20年後については、その時社会がどうなっているかを可能な限り想像し、その社会に向けてのビジョンを描くべきです。

そして、日本において10から20年後を想像する時、現時点でほぼ確定していることは、温暖化の進展、人口減少、AIの進歩です。これらは、必ず考慮すべきパラメータです。

最近では、アメリカとイスラエルによるイラン攻撃から始まった中東での紛争によって、日本に輸入される原油が大幅に減ることが見込まれ、一気に社会が不安定になりました。データを再確認すると、再生可能エネルギーが含まれますのでエネルギー自給率自体は約15%ですが、エネルギーだけではなくさまざまな化学製品の原料となる原油の海外依存度は99%以上です。食料については、カロリーベースの自給率が38%です。これらの数値は、わが国が、さまざまな資源を海外に依存し、その上で、現在の生活を維持していることを示しています。

私たち人類は、「世界各地から輸入した食材を使った贅沢な料理、自動車や飛行機を使った長距離の旅行、テレビやゲームなどの娯楽」などによって、豊かな生活を送れるようになってきました。そして、このような豊かな生活を送る中で、私

たちは、環境を汚染し、地球に大きな負荷を掛けています。

SDGs やカーボンニュートラルを強力に進める必要がありますが、基本的には、「美味しいものを食べること。暖冷房の効いた快適な生活を送ること。」に「幸福」を感じる価値観から抜け出す必要があります。

しかし、このような考え方だけでは、単に「貧しさ」を感じることになり、人類のwell-beingには繋がりません。

例えば、「自分が何かをする」「自分が何かを作る」「自分が誰かと係わる」など、「自分が主体的に行ったこと」によって幸福を感じるような、新たな価値観が必要です。皆さんもそうであるように、人間は、自分の行為によって仲間が嬉しそうにしている状態に、幸福を感じます。このような性質は、私たちが原始人であった頃から持っていたもので、今後の「新たな価値観」のヒントになるはずです。

さて、皆さんの人生に大きな影響を及ぼす可能性があるものの1つが、AIです。今後、AIを組み込んだシステムや人型ロボットが、私たちの社会や仕事のあり方を大きく変えていくことは間違いありません。これまで人間が担ってきた仕事の一部を、AIが補完したり、代替したりする場面も増えていくでしょう。

昨年、経済産業省が取り纏めた「2040年の就業構造推計」では、職種ごとの労働需給の予測が示され、「数百万人規模で、事務職では余剰が生じる一方で、AIやロボットを活用できる人材が不足する」とされました。これは、仕事そのものが突然失われるというよりも、求められる能力や役割が変わっていくことを意味しています。

こうした時代において重要なのは、AIを脅威として捉えることではなく、AIを使いこなし、AIと協働できる人間になることです。複雑な課題を多面的に捉え、自ら考え、判断する力は、今後ますます重要になります。そのような高度な知性こそが、AI時代において人間が発揮すべき強みであり、皆さん一人ひとりが磨いていくべき力だと思います。

わが国の国際的産業競争力強化のためでもありますが、現在、国、文部科学省は、「高度人材の育成」を大きな目標に掲げています。本学でも、令和9年4月設置

を目指して、法文学部、社会共創学部の大学院となる「人文社会科学研究科博士後期課程」、そして、理工学研究科、医学系研究科、連合農学研究科を基礎とする博士後期課程「アドバンストソーシャルマネジメント学環」の申請を文部科学省に行います。社会人の受け入れも想定した大学院ですので、皆さん方の再入学も期待します。

今後のわが国は、人口が減少する中で、多くの課題を解決しなければなりません。価値観の転換も必要ですから、皆さん方が活躍する「令和」は、昭和や平成の延長線上にはなく、むしろ、昭和や平成とは「連続しない」時代になるべきと認識する必要があると思います。

「昨年こうだったから、今年も、・・・」ではなく、「昨年こうだったから、『今年は』、・・・」という考え方に転換する必要があります。自ら学び続けることによってアップデートした科学的知識を基に、自ら論理的に考え、新たな価値を生み出し、ビジョンを描けるような、創造性豊かな人間に成長してください。

最後に、皆さんが、愛媛大学の卒業生、修了生としての誇りを持ち、これからの変化、変容が大きい社会の中で、豊かな創造性を発揮し、活躍されることを心から祈念し、私からの式辞といたします。

本日は、ご卒業、ご修了、おめでとうございます。

令和8年3月24日 愛媛大学長 仁科弘重